

声かけに反応鈍い犬、聞こえが悪い？

後天性聴覚障害 疑う

聞き取れるといわれています。相談者さんのワンちゃんは耳が聞こえづらい状態と考えられ、他に病気がなければ、加齢に伴う後天性の聴覚障害（難聴）を疑います。

老齢性の聴覚障害は、人と同様に犬でも比較的多く見られ、音波の振動を伝える動きが弱くなることや、音の振動を電気信号に変えて脳に伝える有毛細胞の機能が低下することなどが原因と考えられています。

聴覚が失われていくことは、犬にとっても不安なことです。動くのを嫌がったり、飼い主さんへの依存度が高くなったり、臆病に見える行動を取る傾向がみられます。ただ、片側の耳の聴覚障害の場合は、周囲の人は気が付かないことがほとんどです。

また、聴覚は脳に多くの刺激を与えていて、耳が聞こえないことで脳の刺激が減り、認知症のリスクが高まることが分かっています。実際に、2022年に行われた犬の聴力と認知症の関連性の調査では、耳が聞こえない犬は中度から重度の認知症である割合が高いと報告されています。

急に聴力を失った犬は音のない世界に慣れるまで、戸惑ったり混乱したりしてしまうことがあります。耳が聞こえなくても聴覚以外の手段で飼い主とコミュニケーションを取ることは十分可能です。積極的にコミュニケーションを取り続けましょう。

ただし、加齢に伴う難聴の場合は過度な心配はいりませんが、外耳炎や中耳炎、耳の腫瘍、脳の疾患などの病気が原因で耳が聞こえなくなることもあります。動物病院の受診もご検討ください。

（宇治 正憲・県獣医師会員）

<月1回掲載します>

問 わが家の13歳の犬は、少し前から声をかけても反応が悪く、私が帰宅しても以前のように玄関に迎えに来ず、寝たままです。体を触ると少し驚いたように目を覚まします。耳が聞こえづらいのでしょうか。

答 元々犬の聴力はとても優れており、人には聞こえない音を聞き取ることができ、静かな環境なら1*。先の音も